

## Ⅶ 外来種の監視と防除

### <主要施策の取組状況>

#### 1 外来種の監視と侵入未然防止

##### ①アライグマ等の外来生物の情報収集と監視

- ・ アライグマ防除実施計画に基づき、市町村に寄せられた捕獲情報・目撃情報を収集した。その結果、収集した情報からは山地域、奥山域でのアライグマの生息情報は得られず、移入は確認されなかった。
- ・ アライグマの防除について、市町村事業推進交付金による財政支援や、かながわ鳥獣被害対策支援センターを中心とした技術支援を行った。
- ・ 愛川町、大和市及びJAセレサ川崎の依頼により、クリハラリスの生息調査(コールバック法※1、ベイト法※2等)、捕獲技術の指導を行った。
- ・ クリハラリスの効率的な捕獲のため、多頭捕獲わな及び従来型の捕獲わなの貸与を行った。捕獲わな設置後はすぐに捕獲があり、生息密度の低減において良い成果が上げられた。



クリハラリスの多頭捕獲わな

- ※1 コールバック法 鳴き返し法のこと。対象種の鳴き声を大音量で流して、生息状況を確認する方法。
- 2 ベイト法 クルミ等のエサや、目立つようにエサに見立てたピンポン玉でリスを誘因する方法。食痕やセンサーカメラにより、リスの生息の有無を調べる。

#### 2 丹沢産緑化苗木の育成及び生物多様性に配慮した緑化手法の検討

##### ①丹沢産の緑化種子生産・苗木の育成

- ・ 丹沢山堂平地区にブナの種子採種トラップを設置したところ、不作のため、ほとんど採種できなかった。
- ・ 西丹沢で種子の採種をし、合わせて前年採取したブナ種子の乾燥処理後、冷蔵及び液体窒素による種子保存を行った。
- ・ 令和3年度は、全32種、約17千本の広葉樹苗木が生産された。今後も、県内の森林整備で使用する広葉樹苗木の安定的な供給を図るため、丹沢の広葉樹を中心に母樹候補木等から種子を採取・精選し、発芽率、成長量調査及び生産量調査を継続する。



種子採種作業

② **F S** 生物多様性に配慮した緑化手法の検討

- ・ 治山事業、林道事業での施工実績はなし。
- ・ 平成 28 年度に生物多様性に配慮した緑化工として、遅速緑化の試験施工を行った。その林道法面の施工地にて、在来木本等の侵入・定着により法面緑化が図られていることが確認された。また、治山・林道事業における生物多様性に配慮した緑化手法については、これまでの成果を踏まえ、「生物多様性に配慮した緑化工指針※」としてとりまとめた。



遅速緑化工施工後 3年経過した法面  
(秦野市丹沢寺山)

※ 生物多様性に配慮した緑化工指針 法面等の緑化を施工する際、従来の外来植物を用いた方法ではなく、施工地周辺の環境から植物を移入、定着させる、もしくは神奈川県内に自生する植物を導入する方法を用いて生物多様性に配慮することで、施工地周辺の森林生態系及び景観等を守ることを目的とした指針。

○事業実施位置図（位置情報のある事業のみ掲載）

